

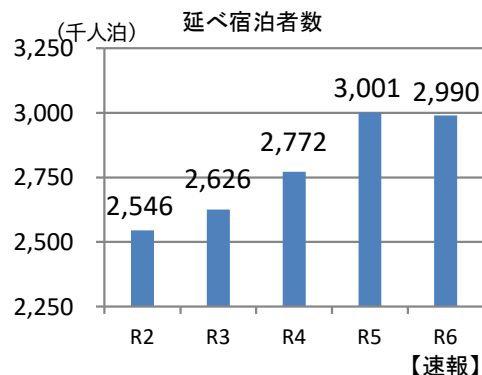


戦略3 観光・交流戦略の主な取組と成果

資料2-1

① 冬季・インバウンド誘客の促進 (目指す姿1)

【延べ宿泊者数】
コロナ禍前(令和元年)の約8割まで回復



令和5年度
4年ぶりの台湾チャーター便が就航



繁閑の平準化に向けた冬季誘客の推進



冬季観光の体験型コンテンツの造成

観光サイトアキタファンを活用した
デジタルプロモーションの実施



宿泊施設の高付加価値化
に向けた取組を支援
補助件数:65件(令和4~6年度累計)



世界遺産などの観光コンテンツの活用推進



② 食品製造業の振興と秋田の「食」のブランド化の推進 (目指す姿2)

商談会の開催等による
マッチング機会の創出



国内外の商談・展示会への参加



県産食材マッチング商談会に104者が出展し、
継続案件も含め143件の商談が成立(令和6年度)

県産食品紹介サイト「秋田の恵み〜千彩万食〜」を
オープン



食品事業者が利用できるポータルサイトと消費
者・バイヤーが利用する食品紹介WEBサイトで
構成する新たなプラットフォームを公開

食品製造事業者の生産性向上を支援



秋田の食をリードする食品事業者支援件数:
7件(令和6年度累計)



補助の例) デジタル制御盤付き製造釜の導入

新商品開発の推進



あきた食のチャンピオンシップの開催



戦略3 観光・交流戦略の主な取組と成果

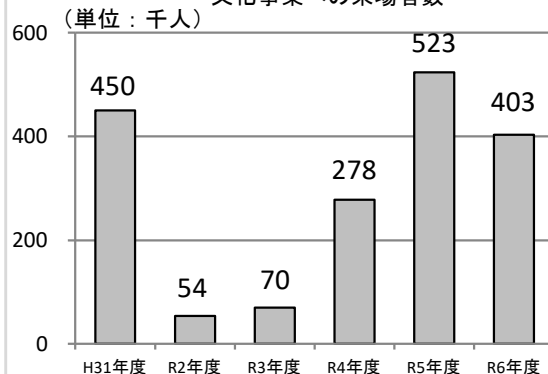
③ 文化芸術、スポーツの振興によるにぎわい創出 (目指す姿3・4)

あきた芸術劇場ミルハスを
核としたにぎわい創出



大規模イベント・興行数:461件(令和4~6年度累計)

文化事業への来場者数が
コロナ禍以前の水準に回復
文化事業への来場者数



ナンバーバル(非言語)・ミュージカルの
上演による秋田ならではの文化の発信



新県立体育館の令和10年秋
開館に向けた基本計画を策定、契約締結



スポーツ大会・プロスポーツを通じた
交流人口・関係人口の拡大

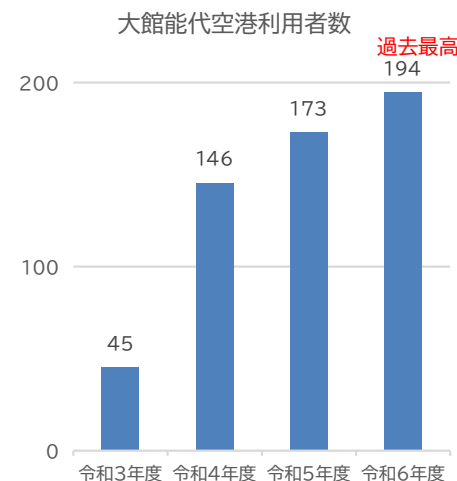


アウェーゲーム会場での本県PR

④ 交通ネットワークの構築 (目指す姿5)

【大館能代空港】

令和4年度 東京羽田線3往復運航の開始
令和6年度 利用者数が開港以来過去最高



第三セクター鉄道の持続的運行の
推進



高速道路等の整備促進



開通に向け整備が進む東北中央自動車道「横堀道路」

地域の実情に応じた
地域公共交通網の形成



AIオンデマンドタクシー: まちなかコサクル(能代市)

旅客・貨物両面における
フェリー秋田航路の利用促進





戦略3 観光・交流戦略の主な課題と対応方針

目指す姿1 「何度でも訪れたくなるあきた」の創出

課題

- 観光産業は、他の産業と比べ労働生産性が低いほか、人材不足が生じている。
- ライフスタイルの変化等により旅行形態やニーズが多様化しているなかで、本県の特徴を生かしたコンテンツの不足と、観光情報を受け手側に十分に伝えられていないことにより、秋田の魅力を生かし切れていない。

対応方針

- 宿泊施設の経営力強化に資する改修等の支援やデジタル技術の活用に関するワークショップなどにより労働生産性の向上を図るとともに、職場環境の改善や女性活躍推進のセミナーなどにより観光人材の確保に向けた取組を進める。
- 質の高いマーケティングにより、観光コンテンツの掘り起こしや磨きあげを行いながら、「秋田の推し」を明確化し、効果的なプロモーションによる誘客を促進する。

目指す姿2 「美酒・美食のあきた」の創造

課題

- 県内食品製造業は、小規模・零細事業所が約8割を占めており、1事業所当たりの製造品出荷額が低い。
- 加工食品の輸出拡大のためには、有望な商流の開拓や稲庭うどん等に次ぐ輸出商材の掘り起こしが必要となる。また、本県の重要商材である日本酒は、輸出先の景気等の影響を受けるため、多角化を図る必要がある。

対応方針

- 生産性や企業価値の向上に向けた取組等に対する支援を行い、県内の食品産業を牽引するリーディングカンパニーを育成するとともに、事業活動の中核を担う人材の育成や、事業者間連携による販路拡大等を促進する。
- 現地商談会への出展や本県へのバイヤー招へいにより、県内企業とのマッチング機会の創出や新規輸出商材の市場への参入支援に取り組む。また、日本酒の輸出先の多角化に向け、輸出拡大が期待される市場である香港・シンガポールでのPRイベントを通じた市場調査等を実施する。



戦略3 観光・交流戦略の主な課題と対応方針

目指す姿3 文化芸術の力による魅力のある地域の創生

課題

- ・ ミルハスは開館から3年が経過し、施設や設備点検などのメンテナンス日も増加する中で、利用者数や稼働率を高水準に維持していく必要がある。
- ・ 人口減少や高齢化が進行する中、各地域で文化芸術活動の担い手が不足している。

対応方針

- ・ ミルハスを適切かつ効率的に管理するとともに、優れた音響特性などを最大限にPRし、質が高く集客力のある公演を開催・誘致していく。
- ・ 東京藝術大学や秋田公立美術大学と連携し、音楽や美術の分野でのアウトリーチ事業の実施を通じて質の高い文化芸術に触れることにより、将来の文化芸術を担う若手の育成を図る。

目指す姿4 活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現

課題

- ・ 少子化の進行に伴い競技人口が減少し、アスリートの発掘・育成・強化に影響している。
- ・ 運営スタッフの高齢化やボランティアスタッフの確保が難しい等、スポーツイベントの実施に要する人材が不足している。
- ・ スポーツ大会等の開催を契機とした交流人口の十分な拡大に至っていない。

対応方針

- ・ 全県から優秀・有望な選手を選抜し、充実した練習環境を提供する「チームAKITA強化・育成システム」の効果的な実施のため、指定競技団体へ指導者養成担当者を配置し、指導者の資質向上を図る。また、小中学生を対象とした「スポーツ能力測定会・体験会」の開催を通じ、スポーツのすそ野拡大に取り組む。
- ・ 多くの県民にスポーツへ関心を持っていただくため、大規模スポーツ大会等への支援や情報発信を行っていく。また、スポーツボランティア希望者と募集者のマッチングが進むよう、イベント運営団体と連携し、マッチングシステムの構築等、魅力的なスポーツイベントの実施を支援し、交流人口の拡大を図る。
- ・ スポーツ大会において、県外からの参加者・観戦者に向け、秋田の文化・食などを効果的にPRし、関係人口の拡大に繋がるよう大会主催者等と連携する。



戦略3 観光・交流戦略の主な課題と対応方針

目指す姿5 国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築

課題

- 大館能代空港について、国の羽田発着枠政策コンテストにより3往復運航が令和11年3月まで延長されたが、県や市町村、地元団体の一体での取組や、利用者の分析結果に基づいたエビデンスベースの利用促進施策が不十分であるほか、利便性について、利用者や企業、旅行業者に十分認知されていない。
- 利用者減少や乗務員不足の深刻化に伴い、バス路線の廃止・縮小が相次いでおり、市町村では、乗合タクシーやデマンド交通など、地域の実情に応じた効率的な交通ネットワークの確保に努めているが、マンパワー不足やノウハウ不足等により、再編の動きが鈍い地域もある。

対応方針

- 航空事業者・旅行事業者、利用促進協議会等との連携を強化し、潜在的顧客層に対するデジタルマーケティングを活用したプロモーションやSNSによる地元情報の発信を行うほか、企業訪問等によるビジネス利用の喚起や商談会等を通じた旅行事業者へのPR等を実施し、新たな旅行需要の取り込みを図る。
- 引き続きバス事業者や市町村に対しバスの運行経費を補助するとともに、より住民が利用しやすい小回りの効くコミュニティ交通への円滑な移行を促すため、市町村等に対し、実証運行等に要する経費を支援するほか、再構築に係る協議会の開催、専任職員によるノウハウの提供や交通事業者・自治体間との協議・調整などにより、路線再編に向けた取組を支援する。